

お お た 区 議 会  
年 報

—平成26年版（追録版）—

2014

大田区議会

## 目 次

1 国内視察	
(1) ICT化先進議会視察 .....	1
2 親善訪問調査	
(1) 美郷町親善訪問団報告書 .....	9

平成 27 年 2 月発行の「平成 26 年（2014 年）版おおた区議会年報」に、26 年 7 月に実施した ICT 化先進議会視察及び美郷町親善訪問の報告書を追録する。

## 1 国内視察

### (1) ICT化先進議会視察

#### ① 目的

本区議会における議会改革の一環であるICT化について、先進議会の事例を学び、本区議会のICT化推進に活かすことを目的とし、地方自治法第100条第13項及び大田区議会会議規則第132条の規定に基づき、議員を派遣し、行政視察を行った。

#### ② 派遣場所

島根県出雲市

鳥取県日野郡日南町

#### ③ 派遣期間

平成26年7月17日(木)から平成26年7月18日(金)まで

#### ④ 視察結果

##### ア 視察における両自治体の導入形式等の比較

項目	出雲市	日南町
システム	クラウド (東京インタープレイ)	クラウド (Google ドライブ) ※無償
資料の提供方法	クラウドへのアップロード	各議員へのメール送付 クラウドへのアップロード
資料提供までの過程	執行部が作成した資料を市内ネットワークで議会事務局に送付。そのデータを議会事務局がアップロード	執行部が、資料を議事日程毎にまとめたデータ(PDF)を作成。そのデータを議会事務局が全議員にメールで送付。
機種	自由 ※システムはAndroid及びiOSに対応	Windows ※パソコンからの切り替えを前提としているため。
通信方法	通信回線及びWi-Fi	Wi-Fiのみ
コスト	無線LAN環境の整備 クラウド使用料(月2万円～)	無線LAN環境の整備 端末代(35台で約390万円)
政務活動費での支出	回線使用料・通信費の3/4以内とし、6万円を上限として可	政務活動費がない。
端末の配布方法	個人での購入 実証実験用に購入	議会で購入し、各議員に貸与
紙資料の扱い	現時点では紙資料も配付。	準備はしているが配付なし。
議席の電源整備	未整備	未整備

イ 両自治体の導入形式等のメリット・デメリット

	出雲市	日南町
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門業者のクラウドを使用しており、資料のアップロード及び管理が容易。</li> <li>・ カスタマイズについて、業者が行うため、今後の機能性向上も見込まれる。</li> <li>・ 個人で購入した端末の使用を認めているため、経費が削減されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 無償のクラウドを使用しているため、ランニングコストが不要。</li> <li>・ 資料の送付がメールのため、タブレットに不慣れな議員にとっては使いやすい。</li> <li>・ 端末を Wi-Fi のみ使用できるものにしていないため、ランニングコストが不要。</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クラウドの使用料がランニングコストとして必要。</li> <li>・ 現時点で紙資料と併用しているため、事務局の負担が増えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料をメールで添付するために PDF 化をしているが、そのデータの作成に手間がかかる。</li> <li>・ 端末を執行部の分も含めて全て議会で購入しているため、導入コストがかかる。</li> </ul>

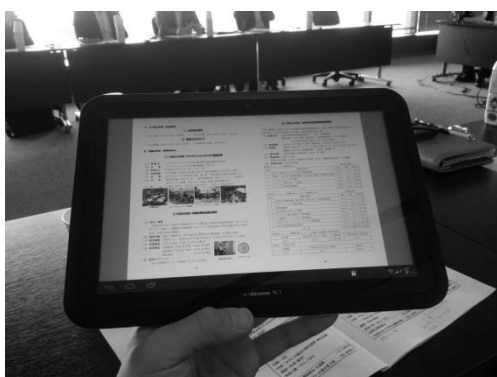
⑤ 各会派（会員）の視察報告

◆ 自由民主党大田区民連合

調査研究の一環として、タブレット端末を活用し、先進的に議会の ICT 化を進めている島根県出雲市、鳥取県日南町を訪問した。

視察①出雲市議会における ICT 化について

出雲市議会は、議員数 32 名と、議会の ICT 化を進めている自治体の中でも、議員数が多く、大田区としても比較をしやすい。この自治体における ICT 化の取り組みは、平成 25 年度の 3 月定例会から実証実験をスタートし、今年の 9 月議会で三度目の実証実験を行い、12 月議会には、本格実施される予定である。



出雲市議会における ICT 化の特徴は、執行部も一丸となって取り組んでいること、またクラウドの環境で進めていること、メールの送受信や SNS の利用を除いてインターネットの閲覧まで認めていること等がある。電子データとして扱う資料に関しては、大田区議会の審議で使う資料の殆どが該当していると言える。端末自体は、一部を除いて各議員の個人所有のものとし、iPad や Android タブレットなど、自由に端末を選択出来る。資料の共有に関しては、SideBooks クラウド本棚を活用しており、実際、端末を使用して使いやすさの確認をさせて頂いたが、資料の表示もスムーズで、何より過去の資料を含めキーワード検索が出来ることにより、更なる議会審議の効率化に繋がると考えられる。

出雲市議会の事例は、まさに我々が調査研究を進めているICT化に向け、オールマイティーな内容となっている。今後、大田区議会として、どの機能が必要であり、どの機能が不要なのか、検討が必要である。例えば、今回の視察の際にも質問をしたが、インターネットの使用については、これまでもSNSを利用して、会議中にその状況を外部に発信したり、委員会中にスマートフォンを使用し、信憑性の乏しい情報を質疑に活用したりといった問題も発生している。出雲市議会においては、議員個々を信じて、その使用については任せているとのことだったが、大田区議会におけるそうした状況がある中では、インターネットの使用に関しては、慎重な判断が必要と感じた。

また、出雲市議会における運用の状況では、実際このタブレット端末を活用していない議員が2名いるとのこと、議員間の公平性の担保の課題や、タブレットは一端末しかないのも、二つの資料を見比べられない(技術的には可能であるが、画面のサイズの問題がある。)などの問題もあり、ペーパーレスによるデメリットも指摘されている。

何より、オールマイティーなICT化ということもあり、こうした機能的な課題を検証出来たことは、大きな意味があると感じた。

#### 視察②日南町議会におけるICT化について

次に、日南町議会のICT化の取組を視察した。一言で言うと、シンプルかつコストをかけない手法によるICT化が進んでいる。基本的には、タブレット端末33台分の購入コスト(227万円)のみであり、それ以外の運用コストが発生していないことに大変感心をした。これは単純に言えば、GoogleドライブとメールへのPDFデータの添付ということで、新たなシステムを活用する必要がない形での運用を行っている。質疑の中において、セキュリティに関する質問もあったが、基本的に日南町の考え方としては、議会に提出されている資料は全て公開が前提なので、問題はないとの回答であった。端末の議会での使用に関しては「日南町議会情報端末機器使用規程」を定めており、その中でも、何か使用に関する問題が発生した際には議会運営委員会に諮ることとしており、今後、運用の中での問題に関しては、その問題が起こった時に検討して行くスタイルである。なお、この使用規定に関しては、議会ICT化の先進自治体である逗子市のものを活用している。

#### まとめ

今回の視察を行った上で、最も大きなポイントは、ペーパーレスによる、具体的な費用の削減効果は、現状として乏しいということである。その点を前提とした上で、ICT化の必要性の議論をしていかなければならない。現在、ICT化調査・研究会の方向性として示されている「ペーパーレス化」という単純な視点を考えると、日南町議会の手法は、コストの点を考えた上では、効果的であると言える半面、今後、議会運営の効率化など、様々な視点でICTの活用を考えた際には、機能的に拡張性の問題がある。また、一部でも外部への流失が好ましくない資料がある中で、セキュリティ面でも問題を感じる。その点、出雲市議会の事例のように、最初は、最低限のシステムを活用しながら、徐々に必要に応じて機能的な拡大を図っていく方が、今後の運用の中では好ましいのではないかと感じた。まずは、出雲市議会で頂いた「タブレット端末導入の取組について」のように、まずは実証実験を行う上での形態の整理が必要である。この形態の整理を行った上で、今後、更なるICT化に向けた取り組みを推進して行きたいと考える。(伊佐治 剛)

## ◆ 大田区議会公明党

### 出雲市

大田区議会では議会のICT化を進めるにあたり調査・研究会を立ち上げ、会則、年間スケジュール、先進都市への視察などの検討を平成26年4月30日から始めました。

ICT取り組みの目標として、まずはペーパーレス化を行うことを目標とすることが決まりました。

その後、そのために多くの実績を上げている業者からレクチャーを受けることとなりました。

導入実績などから、クラウド方式の東京インタープレイ(株)とサーバー方式の(株)NTTドコモ、コネクシオ(株)を選定致しました。

レクチャーの後の、クラウド方式の方が本区の実情にあっているとの委員の意見が大半となり、ICT先進都市への視察として東京インタープレイ社を採用している島根県出雲市を選択、また東京インタープレイと同じクラウド方式を採用している鳥取県日南町への視察を実施することとなりました。

出雲市における導入までの道のりは、平成25年9月27日出雲市議会調査研究会ICT活用調査研究会が「議案書」や「全員協議会資料」の閲覧にタブレット端末を使用する検討が始まり、平成25年度3月定例会、平成26年6月定例会、平成26年9月定例会において実証実験が行われました。

今後はその結果を受け平成26年12月定例会より本格実施が予定されております。

このような議会のICT化への取り組みについて、行政執行部側の副市長の意見としては、「タブレット端末を活用したデジタル行政文書の共有化については、利便性の向上に加え、執行部としてもペーパーレス化による効率化(経費削減、省力化)の必要性については十分理解できる。したがって、執行部としてもこの問題については今後取り組んでいくべき課題と認識しているけれども、片方で特に議会においては、審議そのものを適切にやっつけられるかということが大変重要であるので、一部の議員のみが利便性の恩恵を受けるとか、あるいは端末機の故障なり、操作誤りといったことで、審議の停滞などが生じることがあってはいけないと考えている。繰り返しになるが、そういう観点から、全議員の皆さんが同じ環境・条件でタブレット端末、電子データが扱えるように、目的をはっきりしたうえで、確実に丁寧に準備を進めていくことが重要だと考えている。」とコメントを発表しております。(出雲市資料より)

出雲市における実証実験の範囲としては、

①資料の電子データ化の範囲として3回の実証実験の中で実験を進めるごとに取り組みの内容を増やしていき、平成26年9月定例会では、全員協議会資料、決算書、議案書、事業別決算説明書、条例等関係資料、常任委員会その他事項説明資料、予算書(補正)、事業別予算説明書、請願・陳情書表、諸般の報告書、一般質問通告一覧表を作成する予定です。

②実証実験の参加者の範囲は、当初の実験では、ICT活用調査会会員や希望する議員、行政側からは執行部の職員のうち希望する議員などでしたが、平成26年9月定例会では、全議員、議会事務局全職員、執行部の全職員となり実験を進めるごとに参加者の範囲を増やす予定です。

③実証実験の対象会議では、当初は常任委員会、全員協議会からスタートし、平成26年9月定例会では、本会議、議会運営委員会、常任委員会、全員協議会、特別委員会、協議会その他任意の

会と対象会議を増やす予定です。

出雲市の試算では、本格導入により経費の大幅な経費の削減にはつながらないとの試算であるようですが、会議直前の紙資料の差し替えなどの資料づくりの煩雑実態やICT化による会議資料などの検索作業の効率化などを考えるとメリットがデメリットを大きく上回ることが期待できます。

大田区議会におけるICT化のスケジュールでは、平成26年度は基礎データの収集期、平成27年度は実施準備期、平成28年度以降は本格実施を予定しております。

今回の調査研究を踏まえ、導入までのスケジュールや紙などを併用するのか、どの資料までICT化するのかなど、より具体的な検討を行い、更なるICT化への加速を推進して参りたい。

(勝亦 聡)

#### 日南町議会へのタブレット端末導入について

日南町議会は議員定数12名という小さな議会ではあるが、平成15年から議員全員に公用のパソコンを貸与している。平成17年には電子メールによる公文書の送受信運用を開始。本年平成26年にはタブレット端末導入の予算を計上し、5月の臨時議会よりタブレット本格運用を開始している。

タブレット端末は公用パソコンからの切り替えを前提とするため、WindowsのSafaceを選定している。その他ソフトウェアとしてPDF閲覧・記入用ソフト「PDF Touch 1」を購入。このソフトはマイクロソフトストアで300円。PDFの手書き入力、線及び蛍光ペン風の強調が可能。

議員及び課長級職員など合計35台を導入しその導入金額は約390万円。

役場庁舎に3台のWi-Fi機器を設置し、庁舎内全域をカバーしている。これは来客者用のWi-Fiスポットとしても活用されている。議員の自宅においては議員本人がWi-Fi環境の整備を行ったということである。

議員への会議データの提供は、メールへのデータ添付を基本とし、クラウドからのダウンロードを含め、2系統を準備し、タブレットに保存し、活用している。

議会資料は議会・委員会の日ごとにPDF形式で配信し、PDFのページを基準とした進行を行っている。

本年5月臨時議会から、原則ペーパーレスによる運用を開始している。

課題としては議員および課長級職員のタブレット操作能力の向上。紙資料との運用感覚の違い。タブレットの利用が困難な議員への対応。ダウンロード後の会議データファイル管理。などがあげられるが、まずはペーパーレスを主体に考えている本区においては、経費も安く、とっかかりやすい取り組みなのかと考えられる。

(松本 洋之)

#### ◆ 日本共産党大田区議団

2014年7月17、18日にICT化調査・研究会の行政視察を出雲市、日南町で行った。

#### 目的

大田区議会でペーパーレス化をどのように進めるのか。経過や取り組み各議員へのフォローなどの話を伺った。

#### 報告

出雲市、日南町への各取り組み状況については別紙の資料で確認をしていただくことにして、感

想を中心に記載します。

出雲市は電子媒体を活用することによって情報活用能力の向上を目指すことに力点を置き、どうすればもっと効率的に進められるのかを追及していることに対し、日南町は既存の市販ソフトを使い議案を電子メールで公文書を送ることを行っている。

出雲市は某メーカーのクラウド本棚を使い情報を管理している。データは随時蓄積されていくので検索方法や配置などの改良が必要である。

一方、日南町はメール送信後のデータ管理は議員に任されている。

誤解を恐れずに言わせてもらえば、出雲市は情報機器端末を活用し、利便性、効率性を高めて進めていくことに対し、日南町は既存・市販のものを活用してなるべく経費をかけずに進めていくのではないかと思う。

今回の視察の目的はペーパーレス化にある。

ペーパーレス化だけを考えるのであれば日南町方式であるが、ペーパーレス化を踏まえ更に、利便性の向上や質問への活用、住民への情報公開の推進などを考えた時には出雲市方式での推進ではないかと思う。いずれにせよまだ始まったばかりであり、議論が必要である。（福井 亮二）

## ◆ 大田区議会民主党・新政会

### 1、検討背景

議会内で消費される紙資料の膨大さや、議員及び議会事務局職員の資料整理の煩雑さがこれまでも課題として度々挙げられてきた。

また、過去資料の閲覧などについても議会図書館かホームページ上の会議録検索に限られ、継続的な審議の可能性を限定してきた。

委員会審査などにおいても、紙資料では配付しきれない膨大な資料集などを使用した理事者説明など、IT機器の導入を想定することで更なる審議の深度化が図れる可能性も指摘されてきた。

ICT化と一言でいっても様々な方法があり、本委員会ではひとまず議会内のペーパーレスを検討する方針で議論が進んできた。

こういった経緯からICT化のメリット・デメリットを検証した上で、大田区議会におけるICT化の方向性を決めるべく、先進議会や行政の取り組みを直接視察し、検討する必要が出てきた。

### 2、出雲市議会での取り組みとして

出雲市ではいわゆるクラウド型のデータ集積を行っており、議員がそれぞれに貸与されたタブレット端末を使用して必要な資料やデータを議会事務局が整理した仮想本棚から引き出してくるという形のICT化を実践している。

メリットとしては紙資料と比較しても「読んでいる感」がある程度保たれており、ページを「めくる」機能やメモ機能、単語の縦覧機能など様々な活用が図られる。

デメリットとしては、導入に際してはやはり端末の利用方法がわからない議員もおり、個別に紙資料を用意するなどの手間もあるものの、時間の経過の中でペーパーレスへの移行を行っていく形になる。

費用的にも紙資料で対応してきた時期と大きな差異はなく、むしろ若干のプラスではあるものの、



議会事務局職員の煩雑な手間や直前の資料の差し替えなど、柔軟な対応が可能になりメリットは大きいと感じているとのこと。

大田区でも委員会資料などは2日前までの提出を各部局に求めているものの、そこからの整理、差し替えなどが発生すると非常に手間と時間がかかる。前向きに検討する必要がある。

### 3、日南町議会

鳥取県の山岳地に位置する小さな自治体であるが、とてもコンパクトにうまくまとまった印象の取り組みを行っている。

具体的には、無料のクラウドサービスを使用してほとんど初期費用をかけていないことが大きいと感じた。

スキームとしては、各部局でデータとして作成した資料をグーグルドライブ（無料で2GBまで使用可能なクラウドサービス）にアップロードしてもらい、それを各議員がそれぞれダウンロードして閲覧するというもの。前提として議会事務局側でドライブ内の階層設定やフォルダ分け、権限設定など資料の整理を行わなければならないがコストは大きく抑えることが可能になる。

デメリットとして大きなものは見当たらないが、やはり機器の使用方法がわからない、もしくは取り組みたくないという議員に対しては個別の対応が必要であり、段階を経て進めていかざるを得ない状況は出雲市同様である。

### 4、結論

議会並びに議会事務局のICT化には一定の成果があり、デメリットを考慮しても大田区議会でも導入を検討するべきと考える。

また、各議会並びに事務局からの説明・情報提供の中で、導入を始めてから定着するまでにそれなりに期間を要することなどから導入をするのであれば早い方が良い。

方法は上記の二通りだけではないが、純粋にペーパーレスを目指すのであれば当初の方法としては日南町の方法を模倣しても良いように感じる。

今後、業者に委託した場合の費用と、無料のクラウドサービスを使用した場合の比較検討を行い、議会改革が進んでいくよう引き続き調査研究を進める必要がある。 （馬橋 靖世）





## 2 親善訪問調査

### (1) 美郷町親善訪問団報告書

# 秋田県美郷町親善訪問報告書

(平成 26 年 7 月 9 日～10 日)



(美郷町議会 本会議場)

## ■はじめに

平成 17 年 11 月 5 日から「友好都市提携」と「災害時における大田区と美郷町との相互応援に関する協定（防災協定）」を締結している秋田県美郷町について、相互の理解と交流を深めるため、7 月 9 日～10 日の日程で、親善訪問を行った。

秋田県美郷町は、平成元年に大田区六郷地区の西六郷少年少女合唱団が美郷町（当時の六郷町）を訪れ演奏会を開き、地名が同じであることをきっかけに交流が始まった。美郷町が子どもガーデンパーティー、O T A ふれあいフェスタに参加し、また大田区が美郷町で行われる子ども雪体験、竹うちツアーなどに参加し、交流を深め、平成 17 年 11 月に友好都市となった。

さらに、平成 25 年 6 月には、秋田県美郷町議会議員研修に伴い、高橋猛美郷町議会議長をはじめ、町議会議員全 18 名と松田知己美郷町長が大田区議会へ表敬訪問を行い、相互の交流をより深めてきている。

## <美郷町について>

美郷町は、平成の大合併により秋田県第 1 番目として、平成 16 年 11 月 1 日に、旧六郷町、旧千畑町、旧仙南村の 3 つの町村が合併して新生「美郷町」として誕生。秋田県の南部、仙北平野南東部に位置し、東は奥羽山脈が連なり、西に仙北平野が広がる、澄んだ空気と清浄な水、豊穡の大地に恵まれた美しい郷。六郷地区は、昭和 60 年に「六郷湧水群」が全国名水百選に選定され、「森と清水の里」として広く知られるようになった。

## <歴史>

平安時代の末期、奥羽を支配した清原氏一族の内紛に端を発し、後に源義家が介入し発展した「後三年の役」（1083～1087）の古戦場が仙南地区にある。源義家が雁の乱れ飛ぶ様子を見て敵の伏兵を発見したとされる「雁行の乱れ」。その地として今に伝えられる西沼周辺は、現在「雁の里」として整備され、歴史散策が楽しめるアウトドアゾーンになっている。

	美郷町	大田区	単位
面積	1 6 8 . 3 6	6 0 . 4 2	k m <sup>2</sup>
人口（住民基本台帳）	2 1 , 1 5 5	7 0 4 , 2 4 8	人
世帯数（住民基本台帳）	6 , 7 0 9	3 6 7 , 5 8 6	世帯
老年人口比率	3 1 . 6 (H22)	2 2 . 0	%
歳出決算総額（H 2 4）	1 1 8 . 5	2 , 2 2 3 . 6	億円
議長	高橋 猛	安藤 充	—
現議員数	1 8	4 6	人

※大田区ホームページ、美郷町ホームページ及び観光・国際都市部資料より抜粋

《 大田区議会 秋田県美郷町親善訪問団 名簿 》

役 職	氏 名	会 派
議 長	安藤 充	自由民主党大田区民連合
幹事長	塩野目正樹	自由民主党大田区民連合
	伊藤 和弘	自由民主党大田区民連合
	伊佐治 剛	自由民主党大田区民連合
幹事長	冨田 俊一	大田区議会公明党
	広川恵美子	大田区議会公明党
	田村 英樹	大田区議会公明党
	福井 亮二	日本共産党大田区議団
	佐藤 伸	日本共産党大田区議団
幹事長	山崎 勝広	大田区議会民主党・新政会
	森 愛	大田区議会民主党・新政会
	野呂 恵子	大田区議会緑の党

随 行	近藤 倫生	大田区議会事務局長
随 行	長谷川 歩	大田区議会事務局



## 《 美郷町親善訪問行程表 》

### < 7月9日 (水) >

11:40	羽田空港 発 (日本航空1263便)
12:45	秋田空港 着 (美郷町へ移動)
14:30	・美郷町内資源視察 (湧水視察・酒造視察) (美郷町役場へ移動)
16:00	美郷町役場 着
16:05	・美郷町長・美郷町議会議長表敬訪問

### < 7月10日 (木) >

9:35	・ラベンダー園視察
10:25	・認定こども園六郷わくわく園視察
11:45	・米サラダハウス視察 (秋田空港へ移動)
15:55	秋田空港 発 (全日空408便)
17:00	羽田空港 着 《 解 散 》



道の駅雁の里「せんなん」に掲示されている  
美郷町との交流・連携協力している団体一覧

## 1 美郷町内資源視察

(1) 訪問日時 平成 26 年 7 月 9 日 (水) 14 時 30 分～16 時

### (2) 概要

- ・美郷町の湧水は、町内に 126 カ所確認されており、今でも生活の一部として使用されている。
- ・平成 20 年 4 月に、美郷町水環境保全条例を制定し、町民共有の貴重な財産として保全し次世代に引き継いでいくこととしている。
- ・探索マップ等を作成し、観光客に多様なコースで町歩きを提案しているほか、観光案内人による案内や酒造見学も行っている。
- ・登録観光案内人数 16 人
- ・事業費 225 千円
- ・説明者 坂本喜代介氏 (登録観光案内人)
- ・栗林酒造視察

恵まれた自然を観光資源として活用し、美郷町の魅力を発信していた。また、まち歩き中に下校する児童たちと何度かすれ違ったが、みな大きな声で「こんにちは」とあいさつをしてくれる姿に一同感銘を受けた。



街中に湧水があり、観光資源として活用されている。



恵まれた湧水を活かし酒蔵も多い。



大田区でも観光案内人による説明があると、まち歩きの理解がより深まると感じた。

## 2 美郷町長・美郷町議会議長表敬訪問

(1) 訪問日時 平成 26 年 7 月 9 日 (水) 16 時 05 分～17 時

### (2) 概要

- ・美郷町出席者：松田知己町長、佐々木敬治副町長、福田世喜教育長  
高橋猛議長、深沢義一副議長、中村美智男総務常任委員長、  
深澤均教育民生常任委員長、森元淑雄産業建設常任委員長、  
照井智則事務局長
- ・意見交換、議場見学

町、町議会をあげて歓迎いただき、和やかな雰囲気での意見交換を行った。

高橋議長と松田町長からは、美郷町の魅力である湧水やラベンダーを融合したラベンダー由来の酵母を使用したオリジナル日本酒づくりの取組みのほか、漢方薬の原料となる樹木を新たに植樹し地域の活性化に繋げていく取組みなどを伺った。また、街中で子どもたちが気軽に挨拶をする教育方針などについて意見交換を行った。



安藤議長あいさつ



和やかな雰囲気での意見交換



落ち着いた色合いで、窓から外が見える美郷町議会本会議場



### 3 ラベンダー園視察

(1) 訪問日時 平成 26 年 7 月 10 日 (木) 9 時 35 分～10 時 10 分

#### (2) 概要

- ・美郷町は、湧水や生薬の栽培と合わせて内外に誇れる「いやしの里」の一つとして、ラベンダー園の充実を進めている。
- ・ラベンダー園では、通常の色紫色のラベンダーのほか、突然変異による白いラベンダーを「美郷雪華」と命名し独自ブランドを形成。合わせて約 2 万本のラベンダーが咲いている。今年から、北海道富良野町からもラベンダーの交流を行っている。刈取り後の花を活用したルームフレグランスの販売や、「美郷雪華」の酵母を使用した日本酒の製造・販売など多方面に展開を図っている。
- ・年間来場者数 約 4 万 5 千人
- ・説明者：商工観光交流課 高橋一久課長、大澤修班長、山田健貴主事

当日は、時折強い雨が降るあいにくの天気であったが、近隣の幼稚園の子ども達も遠足に来るなど、町民の憩いの場所となっていることがうかがえた。



きれいに整備されているラベンダー畑



ソフトクリームやフレグランスなどが人気



オリジナル品種の「美郷雪華」

#### 4 認定こども園六郷わくわく園視察（幼保一体的運営・合同保育）

（1）訪問日時 平成 26 年 7 月 10 日（木）10 時 25 分～11 時 30 分

##### （2）概要

- ・平成 18 年 11 月に「認定こども園」に認定される。
- ・平成 25 年 9 月、新園舎完成。
- ・幼稚園児と保育園児が混合のクラスを編成、行事や保護者の組織、職員の勤務体制等も一体的に行っている。
- ・クラス担任は、幼稚園教諭、保育士の両方の資格を有し、併任辞令を発令。
- ・説明者：福田世喜教育長、佐藤廣子園長、半田裕幸班長、齋藤伊久子班長

幼稚園教諭・保育士と小学校教諭の交流を行い、発達や学びの共通理解や入学前後の園児・児童に関する情報交換を行う取り組みは、とても有効であると感じた



開放的なエントランスホール



雨でも元気に遊べる「わくわくホール」



子ども達が本当にのびのびと遊んでいる姿が印象的であった。

5 <sup>まい</sup>米サラダハウス視察（農事組合法人 美郷サンファーム）

（1）訪問日時 平成26年7月10日（木）11時45分～13時00分

（2）概要

- ・「地域のにぎわいと農業の活性化」を目指して地産野菜等を使用した農家レストラン。その他、地産野菜の販売や農家宿泊体験も行っており、「ふる郷体験ツアー」の受け入れ先農家にもなっており、宿泊もできる施設になっている。

周りを水田に囲まれた立地にあり、料理は地産地消のやさしいメニューが多く、「ふる郷体験ツアー」に参加する区民にとっては、本当に第2の故郷に来たような、懐かしい気持ちになれる施設であった。



市民が気軽に立ち寄れるきれいな外観



みずみずしい野菜の直売やランチがある。

■むすびに

7月9日・10日2日間、初めて美郷町を訪問し、議長・町長・教育長をはじめ多くの方々から温かい歓迎を受けた。視察では、湧水やラベンダーなどを拝見し、議長をはじめとした各議員の理解のもとで全町をあげて魅力ある地域づくりに繋げている姿勢や、全国で最初の認定こども園では幼児教育の充実に培われた「教育県秋田」の奥深さに触れることができ感銘を受けた。

今回の親善訪問を通して、改めてお互いの良さを学び合い友好都市として相互補完できる魅力を再確認し、大田区政にも活かしていきたいと感じたところである。

町長、議長をはじめ今回お世話になった美郷町の皆さんありがとうございました。今後も交流を深めお互いを高めあっていけるよう期待しております。

## 【各参加者からの感想（抜粋）】

◆美郷町は水のおいしい町で、いたる所で水が飲めることは豊かな自然の大切さを感じた。友好都市・防災協定など相互の連携をこれからも深めて、こども達の交流も活発にできるように考えていきたいと思う。

◆今後、日本の農業が世界に貢献していく上で安全な「食」「おいしい天然水」は強力な売りになると期待されており、美郷町のすばらしい未来が見えたと思えました。

◆子育てに関する秋田県の先進的な取り組み（子供たちの元気さ・きれいな行き届いた施設・施設の方々の自信に満ちた対応・利用料金の安さ）に驚くとともに私たち都市部の子育て施策との違いにショックを受けてまいりました。

◆大田区は国内と海外とを問わず、いろいろな都市と交流を深めてお互いによいところを取り入れたり、見習ったりしながらふところを拡げていきたいと思っています。

◆平成の大合併のなかでそれぞれの町の特徴と文化を大切にしながら、新しい町の魅力を創造していく気概を感じました。

◆大田区の「第2の故郷づくり」のような運動として、他の交流自治体も含めた交流方法の検討をしていければと考えます。

◆このような交流を深めていくことによって、商業ベースの交流を核とした文化・教育・観光などの分野における相互交流が加速していくことが期待できると考えます。

◆人のつながりがあふれる豊かな街でした。それは特に学校帰りの子ども達が、見ず知らずの私たちに「こんにちは」と挨拶をしてくれる様子に表れており、次の世代をしっかりと育てている姿に、災害時に相互応援する協定が生きてくる原動力を見る思いがいたしました。

◆いつ来るとも知れぬ首都直下型地震において食料や水の確保においても都市間連携を強化する事はとても有効であると考えます。

◆自然が豊かできれいな水が豊富にある町だと実感し、「災害時の相互協定」や子ども達の交流で、この点等での可能性を活かした取り組みの強化を感じました。

◆今回、訪問して感じたことは、美郷町の郷土愛の大きさです。防災でも観光でも、その土台は郷土愛だと思います。大田区をもっと好きになってもらうこと。ここに力を入れるべきだと思います。

◆今後は、区内における美郷町のイベントだけでなく、平時の区としてのメリットを明確に出来ればと感じた。

平成27年 4 月発行

平成26年（2014年）版（追録版）  
おおた区議会年報

発 行 大田区議会  
編 集 大田区議会事務局  
〒144 - 8621 東京都大田区蒲田五丁目13番14号  
電話 (03) 5744 - 1474